

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和6年6月26日(水)
第5校時
対 象 第6学年1組31名

1 単元名 筆者の論の進め方をとらえよう

イースター島にはなぜ森林がないのか（東京書籍）

2 単元の目標

筆者が自分の考えを読み手に納得してもらうために、どのように論を進めているか、考えることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	C(1)ア 「読むこと」において、 事実と感想、意見などの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 C(1)ウ 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。	進んで文章の構成を捉え、学習の見通しをもって筆者の論の進め方について考えをまとめようとしている。

4 指導観

(1) この単元の扱いについて

＜重点指導事項＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編 2 思考力、判断力、表現力等
第5学年及び第6学年 「C 読むこと」

(1)ア

「読むこと」において、**事実と感想、意見などの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。**

(1)ウ

「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。

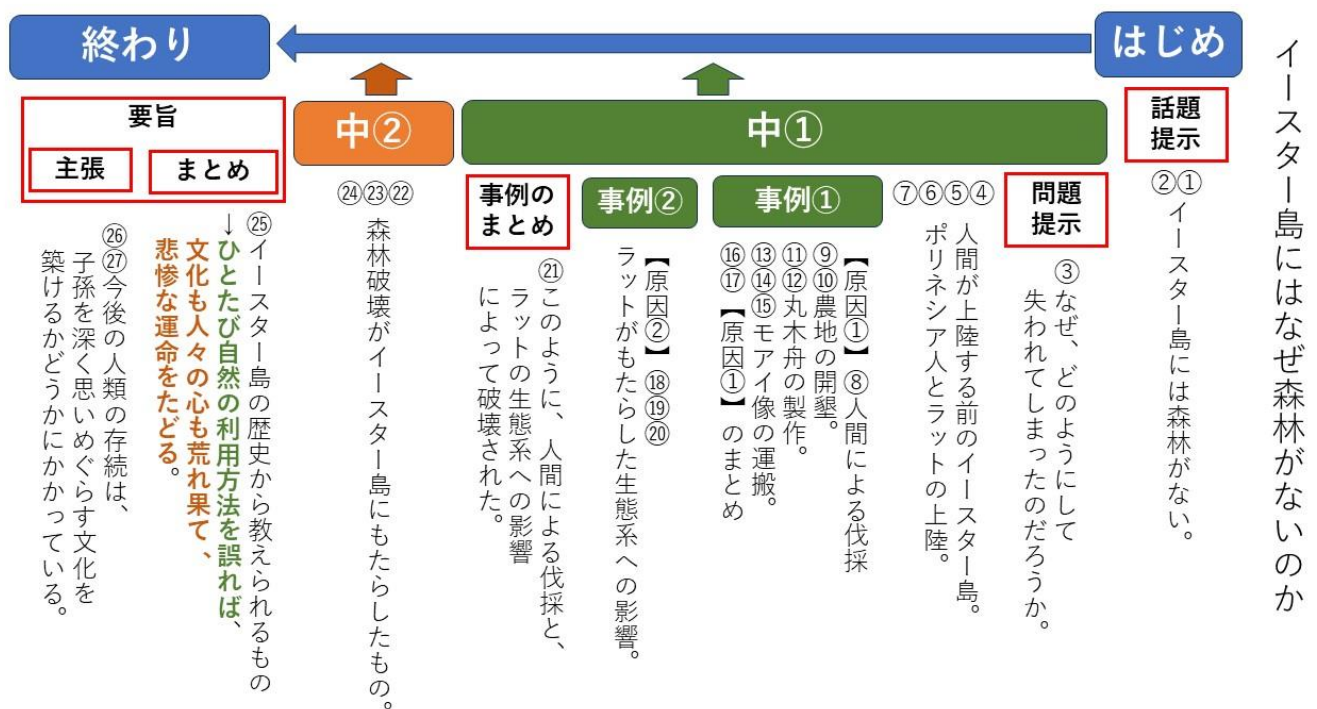
第一次「見通す」では、「よい説明文とは」という問いから既習事項をふり返り、単元の見通しをもつ。本教材の工夫はどのような点か念頭に置きながら本文を読み、「論の進め方」という点について、初読の感想をもち、交流できるようにする。

第二次「取り組む」では、筆者が自分の意見を読み手に納得してもらうためにどのように工夫（論の進め方）をしているか、考える。そのために、まずは意見の中心となる要旨を捉え、それを念頭に置きながら筆者の工夫について追及できるように授業を構成する。本教材では、要旨の位置（尾括型説明文）、原因と結果の関係、挿絵の意図、事例とまとめの関係について、焦点化して取り上げる。

第三次「ふり返る」では、筆者の論の進め方について、自分の意見をもつために、ピラミッドチャートにまとめる活動を取り入れる。次の単元「いざという時のために（書く）」において、自分の意見を説明文に書くことを伝え、見通しをもって取り組めるようにする。

(2) 児童の実態について「児童観」

(3) 教材の活用について「教材観」



<内容的な価値>

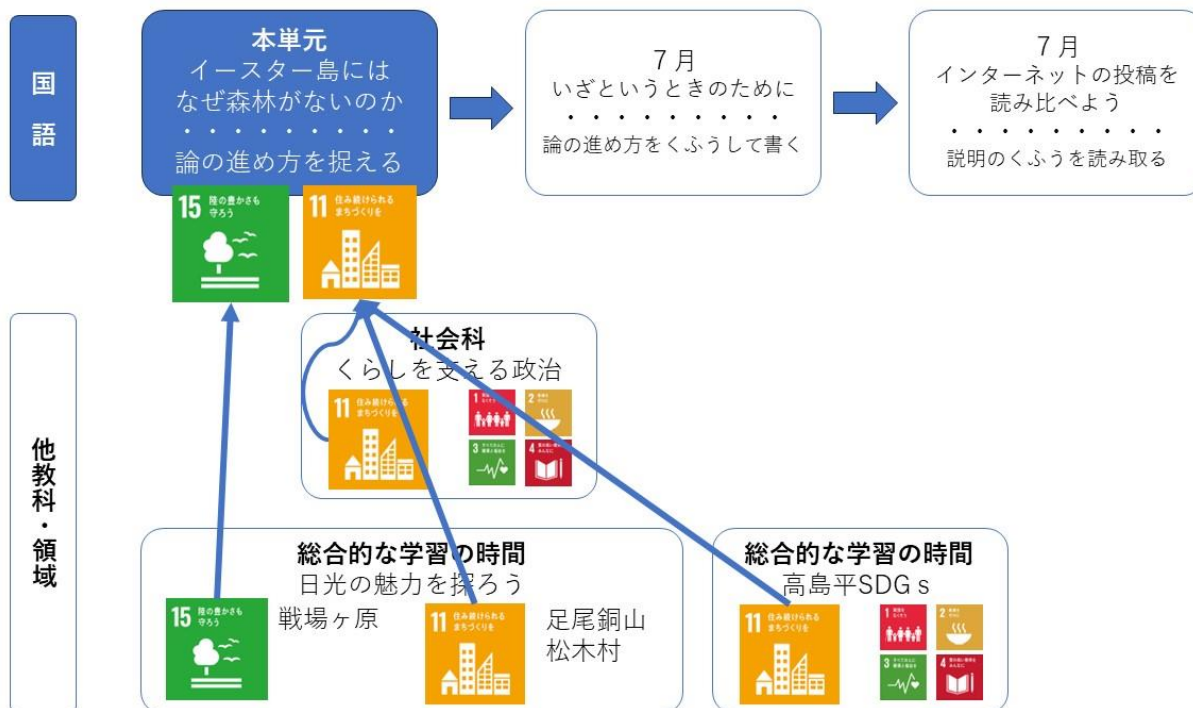


児童にとっては何らかの形で目にする「モアイ像」のあるイースター島が事例として挙げられている。そのイースター島は森林がないことは、挿絵からも認識でき、変わった島であると児童の興味をもたせる題名となっている。イースター島から森林が失われた原因について、人間が未来のことを深く考えなかったことだと主張している。SDGsについて考える機会の多い児童にとって、環境を大切に、社会とどのように関わっていくか考えるきっかけとなる。

<表現上の特徴>

- イースター島の森林破壊を事例として挙げることを通して、子孫のために持続可能な社会を実現することの必要性を述べる、尾括型の説明文である。
- 問いに対する答えが⑧から⑳段落へと及ぶため、頭括的に問いの答え「人間とラット」上陸について④から⑦段落で述べている。
- 森林が失われてしまった原因について、人間による伐採とラットの生態系への影響が挙げられている。⑳段落から、森林破壊がイースター島にもたらしたものについて語るため、㉑段落で一度事例をまとめている。
- モアイ像の挿絵が2枚使われている。2枚目は文化が廃れることへの説明を補うもの意図があると考えられる。

5 年間指導計画における位置づけ



6 単元の指導計画と評価計画(全13時間)

		目標	主な学習活動	評価規準(評価方法)
1	見連す	本文を読み、「論の進め方」という観点で、初発の感想をもつ。	わかりやすい説明文かどうかについて、5点満点のスケーリングで表現し、その理由をPadretに入力する。	論の進め方について、気付いたことPadretやノートにまとめている。(Padret、ノート)
2		段落の役割を捉え、三段構成を捉える。 【三段構成】	センテンスカードを配置に、三段構成を捉える。	三段構成の図をノートに書いている。(ノート)
3	取り組む	要旨を捉え、ノートに3行程度にまとめることができる。 【要旨】	要旨を捉え、友達に伝えるために、要点カードを選択する。	要点カードを選択し、要旨をノートに2～3行でまとめている。(ノート)
4		事例の論の進め方を図にまとめることができる。 【事例の意図】	二つの原因と結果の関係を捉えるために、要点カードを分類する。	原因と結果を整理してノートにまとめている。(ノート)

5		3枚目（2枚のモアイ像の写真）は必要か、意見を持ち、自分の考えをノートに書く。 【挿絵の効果】	2枚のモアイ像の写真の意図の違いに気付くために、写真を比較し、直接関わる文章に線を引く。	2枚目のモアイ像の写真の意図について、自分の考えをノートにまとめている。（ノート）
6		事例とまとめの関係を捉え、筆者の主張に納得できるか判断し、その理由をノートに書くことができる。 【事例とまとめの関係】	「子孫に思いをめぐらす文化を早急に築けるか」という点について納得できるか、5点満点のスケールで表現し、その理由をPadretに入力する。	筆者に意見に飛躍が見られないか、考えたことをPadretやノートにまとめている（Padret、ノート）。
7	ふり返る	筆者の論の進め方の工夫を振り返り、特に生かしたい工夫について、ピラミッドチャートにまとめることができる。	筆者の工夫について、自分の考えをもって友達と交流できるように、学んだことをピラミッドチャートに整理する。	筆者の工夫の良さを評価し、ピラミッドチャートに整理している。（ノート）

7 指導の工夫

できそう！やってみたい！！前のめりに学ぶ児童の育成
国語科説明文における「読み解く力」の育成

<読み解く力ポイント> 【推論】におけるつまずきポイント

長文の文章に対して、話の中心を見失ってしまう児童がいる。話の中心かどうかを比較しやすいように、要点を使って、情報量を調整する。また要点カードを具体と抽象関係で配置することで、論理の視覚化を図る。

<前のめりポイント>

要点運試しを通して、要旨を捉えやすくする。負事例と比較することを通して、要旨にふさわしい要点について検討できるようにする。また、全体を俯瞰しながら比較することで、要旨の位置について把握できるようにする。

8 本時（全7時間中の第3時）

（1）ねらい

要点を選択することを通して、要旨の位置に気付き、要旨を20秒程度で友達に伝えることができる。

（2）展開

	○具体的な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ※「読み解く力」との関連 ■学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
Input	○要点運試しを通して、要旨を捉えるにはどのような文に注目すればよいか、話し合う。 ・モアイ像を木で運んだことは、あまり重要ではないのでは？。 ・人口が三分の一というもの、絶対言う必要はないのでは。 ・筆者の主張は伝えた方がいいね。	◇校長先生に20秒で「イースター島にはなぜ森林がないのか」伝えるという場面を設定する。 ◇要旨としてふさわしくない文も検討できるように、運試しの活動を取り入れる。

筆者が伝えたいことを、20秒程度で友達に伝えよう

Think	○筆者の伝えたいことの中心が伝わる要点を選択し、その理由を話し合う。 ・題名に対する答えは伝えたほうがよいのでは。 ・文章全体のまとめも必要だね。 ・伝えたいこと（主張）は入れた方がよい。	◇選択の理由を共有できるように、Padret で意見の可視化をする。 ◇話の具体と抽象の関係が捉えられるように、要点カードを整理（上：抽象的、下：具体的）する。 【推論】話の中心かどうかを比較しやすいように、要点を使って、情報量を調整する。
Output	○選んだ要点カードを使って、20秒を目安に要旨を友達に伝える。 ○要旨をノートにまとめる。	◇筆者の伝えたいことの中心を「要旨」ということを確認する。 ◇書き始める前に、20秒を目安に要旨を友達に伝える活動を設ける。 ■考えた要旨を友達に20秒程度を伝えている。（発表） ■考えた要旨をノートにまとめている。（ノート）

成果	課題
・「運試し」というゲーム性を取り入れることで、前のめりに学ぶきっかけとなった。 ・要点の短冊を比べることが、考えやすかった。 ・Padlet の評価機能を活用することで、要点同士を比較することができた。	・要点は児童が考えた方が内容理解につながった。 ・児童にとって、「大事な文」が要点を捉えるということにつながらなかった。 ・「要点」とは何か、全体で確認することで、要旨を捉える視点をもたせたかった。